

今までの取り組み

	目指すべき姿	Plan(計画)	Do(実行)	Check(評価)	Act(改善)
			現状把握、現状分析、課題抽出、目標の設定、対応策の検討 ※詳細は別紙	対応策の実施 ・研修部会、広報啓発部会での取り組み	効果確認
日常の療養支援	医療・介護関係者協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療・介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた生活ができるようにする。	①地域における持続可能な仕組みの構築	・定期受診ができない(していない)方、中断患者への対応 ・訪問診療(往診)の普及啓発 ・訪問診療(往診)の制度を知らない市民が多い。 ・訪問診療の普及啓発チラシ(具体版、簡易版)の作成。	・市民へのチラシを活用した訪問診療の普及啓発。 ・本人の様子などから、訪問診療のニーズをキャッチする視点、促す意識を関係者が保持する取り組み。	
		②関係事業者の連携の仕組みの構築	・MCSが上手く活用されていない ・チラシの作成など、MCSの認知度・活用率の向上を目指した取り組み。 ・未加入事業所のリストアップや、各団体の集まりの場での周知強化。	・講座の開催(記録の書き方講座、MCSの使い方講座等) ※令和8年度 研修部会にて検討	
		・各職種の理解不足により必ずしも連携ができていない。 ・連携をとりやすい職種、そうではない職種の違いを分析。	・(案)研修会の開催(自職種紹介、強みの紹介、質疑応答) ・(案)事業所紹介 ※令和8年度 研修部会にて検討		
入退院支援	入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療・介護を必要とする高齢者が、家族の意見も踏まえ希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。	・医療、介護それぞれの理解不足 ・退院後のサービス調整を行う連携と時間の確保 ・市民が容易に手段を知ることができる環境の確保(適した媒体の用意、各地域での講座実施等)	・入退院支援ルールの広報の推進 ・医療と介護、それぞれが制度について理解できる状況をつくるため、定期的な集まりや情報共有できる場を設置 ・市民が在宅療養の生活イメージが持てる状況をつくる	サポセンよりアンケート実施済み集計中	
看取り	地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解した上で、医療・介護を必要とする高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。	・「縁起でもない話」とするイメージが強く、話題にしにくい傾向がある ・ACPIについて、医療と介護関係者が担う役割を認識する機会が必要 ・看取りについて、本人、家族等、支援者の間で、本人の意思が十分に共有される機会が必要	・絵本の作成(介護の絵本、人生会議の絵本、在宅看取りの絵本) ・絵本の動画化(介護の絵本、在宅看取りの絵本) ・専門職向けにACPや在宅看取りに関する研修会の実施 ・市民向けにACPや在宅看取りに関する講座の実施 実施済	(案)アンケート集計(5段階評価で「以前と比べ、左記『目指すべき姿』に近づいているか」を問う)	
急変時の対応	医療・介護・救急が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療・介護を必要とする高齢者の急変時にも、本人の意思を尊重した適切な対応が行われるようにする				